

第2学年 国語科 年間学習計画と評価

1 教科目標等について

目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を養う。 (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができる。〔知識及び技能〕 (2) 論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関りの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕
教科書	国語2（光村図書） 新編新しい書写1・2・3年用（東京書籍）
副教材	国語の学習 学習漢字ノート すらすら基本文法

2 評価の観点及び方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
以下の事項について、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしている。 (1)言葉の特徴や使い方に関する事項（漢字、語彙、文等のきまり、表現技法等） (2)情報の扱い方に関する事項（文章や資料等の関係を理解や整理等） (3)我が国の言語文化に関する事項（伝統的な言語文化や書写等）	各単元の中で設定されている「話す・聞く」「書く」「読む」といった言語活動を通して、既習の知識や技能等を適切に活用したり、複数の知識や技能等を結び付けたりしながら、学習課題や自分なりの問いに対して、考えたり、判断したり、表現したりしている。	各単元における知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、最後まで粘り強く学習しようとしている。
・テスト（定期、単元、技能等） ※技能テスト：音読、スピーチ、書写作品等 ・授業の活動や発言 ・指導に対する成果物（ノート、レポート、作品等）	・テスト（定期、単元等） ・授業の活動や発言 ・指導に対する成果物（ノート、レポート、作品等）	・授業の活動や発言 ・指導に対する成果物（ノート、レポート、作品等） ・振り返り

3 学習についてのアドバイス

学 校	・学習課題等を捉え、自分なりの問いを持ち、解決する方法を工夫しましょう。 ・先生の指示や友達の発言をしっかりと聞きましょう。 ・目的や対象等を意識して、伝わるように話したり、文章を書いたりするようにしましょう。 ・文章を読む際には、内容や構造等を捉え、自分の考えを深めていくようにしましょう。 ・学習の記録（ノート等）は、工夫してまとめるとともに、自分の考えや気付いたことなども書き込みましょう。
家 庭	・授業に入る前には、教材文を繰り返し読み、新しい漢字や分からない言葉を調べましょう。 ・教科書等を参考にして、何を学習するのか、自分はどのように考えるのかを整理しましょう。 ・自分が興味をもった本を中心に計画的に本を読むようにしましょう。 ・学校で学んだことを、ワーク・タブレット等を用いて復習し、確かな力にしましょう。

4 主な単元・教材及び目標

※単元等や目標については、順序を変更することがあります。

月	主な単元・教材等	主な学習目標
4	見えないだけ（読） アイスプラネット（読） 〔聞く〕意見を聞き、整理して検討する（話・聞）	・語感を磨き語彙を豊かにする。 ・登場人物どうしの関係や人物像を捉え、図で整理する。 ・意見と根拠の関係を整理し、根拠の適切さについて検討する。 ・集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討する。
5	魅力的な提案をしよう（話・聞） 枕草子（読） クマゼミ増加の原因を探る（読）	・自分の立場や考えが伝わるように話の構成や表現を工夫する。 ・作者のものの見方や考え方を捉える。 ・社会生活の中から題材を決め、自分の考えが伝わる文章を書く。 ・文章全体と部分との関係に注意し、主張と例示との関係を捉える。 ・文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する。
6	情報整理のレッスン 思考の視覚化（情） 情報を整理して伝えよう（書） 短歌に親しむ/短歌を味わう（読）（書） 言葉の力（読）	・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使う。 ・多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする。 ・抽象的な概念を表す語句の量を増やす。 ・観点を明確にして短歌を比較し、表現の効果について考える。 ・筆者の考え方を捉え、自分の知識や経験と結び付けて考える。
7	メディアの特徴を生かして情報を集めよう（情） 読書を楽しむ/翻訳作品を読み比べよう（読書）	・メディアの特徴や、情報の信頼性を判断するポイントをまとめる。 ・本や文章には、さまざまな考え方が書かれていることを知る。 ・観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考える。
9	ヒューマノイド（読） 字のない葉書（読） 表現を工夫して書こう（書） 〔推敲〕表現の効果を考える（書） 聞き上手になろう（話・聞）	・話や文章の構成や展開について理解を深める。 ・登場人物の言動の意味を考え、内容を解釈する。 ・随筆の味わい方について考え、日常の読書に生かす。 ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使う。 ・読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめ、文章を整える。 ・論理の展開に注意して聞き、思いや考えを引き出す質問をする。
10	モアイは語る（読） 思考のレッスン1 根拠の吟味（情） 適切な根拠を選んで書こう（書） 聴きひたる 月夜の浜辺（読）	・筆者の意見を支えるための、より適切な根拠の在り方を理解する。 ・文章の構成や論の展開について考える。 ・根拠の吟味のしかた、意見の説得力の高め方を理解する。 ・適切な根拠を選び、構成を工夫して意見文を書く。 ・語句や表現に着目し、詩の情景や作者の心情を想像する。
11	扇的/仁和寺にある法師（読） 漢詩の風景（読） 君は「最後の晩餐」を知っているか（読） 「最後の晩餐」の新しさ（読） 思考のレッスン2 具体と抽象（情）	・古文独特の調子やリズムを意識して朗読する。 ・登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈する。 ・作者のものの見方や考え方を理解する。 ・漢詩に描かれた情景や心情、構成や表現の効果を考える。 ・文章の構成や表現の特徴などについて、二つの文章を比較する。 ・具体と抽象の関係について理解する。
12	〔話し合い（進行）〕話し合いの流れを整理しよう（話・聞） 立場を尊重して話し合おう（話・聞） 「自分らしさ」を認め合う社会へ（読書）	・意見どうしの関係に気をつけて、話し合いの流れを整理する。 ・互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、考えをまとめる。 ・実体験を基に書かれた作品の魅力に触れ、感想を伝え合う。
1	走れメロス（読） 描写を工夫して書こう（書）	・作品の設定や場面の展開を押さえ、人物像を読み取る。 ・読み手が場面の様子や人物の心情を想像できるように物語を書く。
2	国語の学びを振り返ろう（話・聞）（書）	・1年間の学習での変化を振り返り、国語を学ぶ意義を考える。
3	鍵（読）	・詩から読み取った作者のものの見方について話し合う。

※書写は、国語科の授業の中で行われます。以下は、年間を通じた学習目標です。

- ・漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書く。
- ・目的や必要に応じて、楷書または行書を選んで書く。